

社会から求められること

- ・ 感染症克服は世界の重要課題であり、国家・産業セクターを超えた協調対策
- ・ 人手不足が進むなか、医療・介護需要は拡大し、業務の効率化が求められる
- ・ 多様化する健康・医療ニーズへのこまやかな対応

東洋紡が貢献できること

WHY TOYOBO

感染症分野における
ソリューションを提供

ワクチンとバイオシミラーの
無菌注射剤の製造

医用膜や再生誘導材などで
QOL向上や治療に
不可欠な素材を提供

医療・介護用途に三次元
網状繊維構造体を提供

健康な生活 &ヘルスケア



感染症診断薬等の提供を
通じて貢献する検査回数

1,000 万回/年



透析膜の提供を通じて
貢献する透析患者数

25 万人



生化学検査等の
原料市場シェア

30 %



再生誘導材の提供患者数

10 万人/年



三次元網状繊維構造体の
医療・介護領域における
普及・拡販

社会から求められること

- 誰もがデジタルを安心して活用できる、「人」中心のデジタル社会
- デジタル技術伸展に不可欠な製品材料や製造工程を支えるソリューションの提供
- 快適な空間の実現に寄与するソリューションの提供

東洋紡が貢献できること

「人」中心のデジタル社会への移行・
イノベーションへの貢献

室内・公共・移動空間の
快適性向上

新素材の提供・未来のモビリティ
(CASE・MaaS対応) 提案

WHY TOYOBO

スマートコミュニティ & 快適な空間



デジタル社会を支える
商品群の販売量拡大 **1.5** 倍
(2020年度比)



車室空間キャビンフィルタの
販売累計 **120** 万台



参入

音・熱マネジメントによる
電動車の快適車室空間の創出

脱炭素社会

社会から求められること

- 「地球」から求められる最優先課題は気候変動対応
- 自社の事業活動・バリューチェーン全体における温室効果ガスの排出量削減
- 脱炭素社会の実現に寄与するソリューションの提供

東洋紡が貢献できること

WHY TOYOBO

事業活動における温室効果ガスの排出削減を
推し進め、2050年度にはネットゼロを達成

脱炭素社会の実現に貢献する
さまざまなソリューションの提供



「Scope 1, 2」2030年度に
46%以上削減（2013年度比）
2050年度にネットゼロ

削減貢献として2050年までに
バリューチェーン全体のGHG排出量を上回る

削減貢献量



自社のバリューチェーン
全体の排出量

自社の取り組み



浸透圧発電

参入



風力発電用の
洋上ケーブル・絶縁樹脂



燃料電池車の
電池接着シート



大規模蓄電池用
電極材



水素関連材料

ソリューション提供

社会から求められること

- プラスチックメーカーとしての責任
 - ✓ 製造工程からの廃棄物を削減、リサイクル、最終処分量の最小化
 - ✓ バイオマス・リサイクル原料の活用や循環型社会の実現に向けた対応

東洋紡が貢献できること

製造工程における新品素材の使用率
低減とリサイクル原料の活用追求

製品・ソリューションの提供を通じて
製品ライフサイクル全体で
資源使用量削減に貢献

WHY TOYOBO

資源循環に向けた
エコシステムの形成・参画

循環型社会



最終廃棄物処分率
1 %未満



フィルムのグリーン化*
比率 **60 %**

* バイオマス・リサイクル原料, 減容化



資源循環
エコシステム 参画

 **R PLUS JAPAN**

自社の取り組み

ソリューション提供

数値は2030年の目標

社会から求められること

- 環境負荷低減はもとより、環境の“良質化”
 - ✓ 自社の事業活動において、環境負荷を低減する取り組み
 - ✓ 良質な「水」「大気」「土壌」を確保するソリューションの提供
- 生物多様性を保全するための取り組み
 - ✓ ‘ネイチャーポジティブ’(自然や生物多様性を優先し、損失をプラスに転じる)への寄与

東洋紡が貢献できること

製造工程で発生する化学物質を適切に管理、外部漏出を防止

揮発性有機化合物回収装置、水処理膜などにより環境負荷軽減・良質化に貢献

フードロス削減に寄与する高機能フィルムの販売量拡大により生物多様性保全に貢献

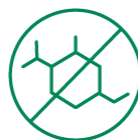
WHY TOYOBO

良質な水域・
大気・土壌
&生物多様性

環境負荷低減



排出排気物質 **15** % 削減
(2015年→2030年)



揮発性有機化合物回収装置
処理風量 **70** 億Nm³/年



膜による海水淡水化
1,000 万人分 の水道水相当



フードロス削減に寄与する
高機能フィルムの販売量
2020年度比 **4** 倍

自社の取り組み

ソリューション提供

数値は2030年の目標